

科目	海外ビジネス演習(中国語圏)	担当	盧 聰明	履修学年	2年
時間数	90分×時限×450回(週1回)	履修区分	選択	単位数	30単位
<p>【授業目標・到達目標】 本授業は、有機的融和と学際的な教育を目指し、「世界の動向の捉え方、各国・地域の歴史と変動の読み方を学び、共通言語に慣れ親しんで、広い活動の幅を身につける」ことを授業目標として掲げている。「海外ビジネス演習」は一年間の海外留学プログラムであり、経営学部海外留学教育プログラムの中核的な科目でもある。この授業においては、語学だけでなく、現地の提携校学生との交流や商業施設の利用などにより、現地の商文化体験と学習ができるようになっており、語学力の向上および国際的なビジネスセンスの修得を到達目標とする。</p> <p>【履修注意】 まずは、年度初めのオリエンテーション時の留学説明事項によく留意すること。「海外ビジネスセミナー」、および星城大学経営学部海外留学教育プログラム単位認定留学実施細則(以下、細則)と学生しおりで定める科目群の単位修得が履修の前提条件となっている。また、細則で定められた手続きが別途必要である。 学修前の事前準備を十分に行い、「海外ビジネス演習」の履修後も関連科目の修得を図り、実体験をブラッシュアップして、上記の授業目標の達成に努めてもらいたい。また、留学前後に留学前後に留学先に応じて中国語圏に留学する場合、現地におけるHSK、華語文能力測驗などの語学資格試験の受験が求められている。 留学中、マンスリーレポート(海外ビジネス演習各月報告書)と留学後の総括報告書の提出が必要である。また、細則で定められた留学先発行成績証明書、出席証明などの提出も必須である。</p> <p>【評価方法】 留学中のマンスリーレポートと留学後の総括報告書をベースにして、語学検定試験の結果や留学先における学習態度、出欠と成績の状況などを勘案して、総合的に評価する。 評価にあたっては、指導教員並びに経営学部教務委員会及び国際センター運営委員会の委員から経営学部長が単位認定評価者として指名した者が協議の上評価し、30単位を一括認定する。また、「自分づくりゼミⅢ」、「自分づくりゼミⅣ」、「異文化コミュニケーション」、「異文化理解演習」、「総合ことば演習Ⅲ」、「総合ことば演習Ⅳ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」などについては、予め定められた課題の成果物に対して、当該授業科目担当者が評価を行い、本科目とは別に、合計10単位まで認定する。なお、成績評価は帰国後に、履修年度・学期にさかのぼって反映される。</p> <p>【出席や学事暦について】 留学先の規定に従う。</p> <p>【試験について】 留学先における筆記試験や語学テストなどを受ける。 再試験対象者の条件：再試験は行わない。</p> <p>【予習・復習】 留学先での指導に従って、実施する。 なお、講義計画と内容に付き、学生に選ばれた留学先によって異なる。</p> <p>【教科書】 【参考書】 書籍名：『台湾』 著者：若林正文 著 出版社：ちくま新書 書籍名：『中国と台湾』 著者：岡田充 著 出版社：講談社現代新書</p> <p>【その他の注意事項】 留学期間は年度の春から翌年度の1月頃とする(約10ヶ月間)。日本に帰国してから所属のゼミに出席し、3年時のゼミ履修手続きなどを行う。途中の帰国は基本的に認めないが、特別の事情があれば、事前に申請して許可を得ること。なお、夏休みの期間中、台湾開南大学の宿舍の入替時期があり、一時的に外泊することがある。</p> <p>【授業計画・内容】 年度の概要 留学先は本学の友好提携先である中国湖北大学(武漢市)、台湾真理大学(新北市)、台湾開南大学(桃園市)で、留学期間は各学年の2月より約一年間(実質的に10ヶ月間)。いずれも35週以上の学習時間を予定している。提携大学での主な学習内容は次の通りである。 前期の概要 A. 前期 レベル別中国語の学習が中心、スタディツアー、カリキュラム外の社会活動や文化探索活動なども実施する予定。 夏休み 基本的に現地で過ごすこと。一時帰国の場合、事前に許可を取ること。 後期の概要 後期 レベル別中国語の学習の他、一定の語学能力が認められると、経営学部や外国語学部関連の専門科目の授業参加(経営学基礎・IT関連・語学関連講義)も可能。また、大学のアレンジにより、現地企業や大学近郊の文化施設の見学・訪問活動も行う予定。</p>					